

一般貨物自動車運送業におけるその他災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	8~9	走行中、くも膜下出血を発症し走行不能になり壁に衝突し停車した。後続車の通報により病院に緊急搬送された。	42	1~9
3	11~12	作業中、荷台で膝をついた時にとげが刺さり、とげを抜いて消毒した。当初は特に痛みもなかったが、しばらくして痛みと腫れが生じ、発熱した。	54	10~29
4	19~20	納品業務での仕分けミス、及び検品の確認不足が頻発するドライバーの添乗指導期間中、口頭で注意をしたが良くなることがなく、ストレスが限界に達し暴行に及んでしまった。運転中にバインダーを投げつけたり、納品業務中に殴る蹴るの暴行をしたうえ、車庫帰着時にシフトノブ（20cm程のギア変更ノブ）で頭を小突いてしまった。	46	100~299
5	11~12	不在荷物を宅配BOXに入れようと、台車から荷物を持ち上げたところ、腰に痛みがはしり立てない状態となった。その後、ギックリ腰との診断を受けた。	30	50~99
6	14~15	当社木材集積場にて手で木の皮の整理をしていた際、木の皮のとげが右手薬指に刺さり、当初は異常が無かったが、日ごとに指が腫れて痛みを伴ってきた。	74	10~29
6	11~12	営業所の玄関にて、自分の靴から当社指定貸与の安全靴へ履き替える際、安全靴内の保護カバーに爪が引っかかったまま無理に履こうとしたため、爪が剥がれてしまった。	55	100~299
		荷物を積み納品へ行く途中、道路を走行中にトラックが停車した。ハザードラン		

6	20～ 21	プも付けずにトラックが橋の上に止まっているとの通報があり、警察官が向かい、車内に本人が倒れているのを見て、救急車を呼び、病院に搬送されたが、その後、心筋梗塞で死亡した。	44	—
7	23～24	配送先に到着、納品を完了し空バット回収中、店舗駐車場内、車両後方に倒れている本人をお客様が発見し救急車を呼ぶ。店舗から連絡を受け、すぐに派遣元担当者へ報告、その後の対応を依頼する。派遣元担当を通じ診断書の提出を依頼中、亡くなられたとの連絡を派遣元担当より受けた。車→3tトラック	56	100 ～ 299
7	8～9	出社約2時間後に積み込み、その約2時間半後に卸しの作業際に熱っぽくなり、目眩及び倦怠感に襲われる（発熱ナシ）。その後出発し、別の場所での積み込み時、水分を摂るも改善せず、団地石油にて卸し（具合悪い状態が続く）作業を行った。熱・倦怠感があるなか帰社した。帰社後、受診中にクリニック内で倒れ、病院へ救急車で搬送集中治療室へ入る。10t大型タンクローリー車、ワンマン車に乗っていた。出発時点呼に異常はなく、本人に持病はない。作業所は直射日光を遮る物は無い。	46	100 ～ 299
7	17～ 18	ホームで月曜日配達分の荷物を積み込み中突然倒れた。	52	10 ～ 29
7	9～ 10	荷卸し先の工場内で、積荷の玄米をパレットごとフォークリフトで持ち上げ米袋の紐を手カギ棒で引っ張って開け、玄米をホッパーへ投入する作業中に手カギ棒が紐から外れてしまい、力を入れて引っ張っていた為にその反動で勢いがついて自分の拳で右目を強打し受傷する。	63	10 ～ 29
7	8～9	会社建物脇にて、あお向け状態で倒れている被災者を見つけた。被災者は、会社屋上より飛び降りたものと思われ、全身を強打し死亡した。	44	10 ～ 29
9	15～ 16	車両の使用についてトラブルがあり、同僚の主任から呼び出されて、休日にドッキング場へ行って話をしたところ、同僚の怒りが収まらず、髪を掴んで張り手や投げ飛ばすなどの行為を受けた結果、後頭部骨折、外傷性くも膜下出血と診断されたものである。	27	100 ～ 299

9	12～ 13	荷物をお届けに行った際に、犬の散歩に行くためリールにつながれていた犬に荷物を飼い主に渡す時に、突然右手首と右足の太腿を噛みつかれて負傷したものである。	50	30 ～ 49
9	0～1	倉庫で紙袋にはいった石綿をトラックに積み込んで運搬、建設中のビルとか家の工事現場まで行き、トラックに積んだ荷物の石綿を降ろす作業をしていた。	76	30 ～ 49
9	5～6	荷をおろすためにトラックの列に並んで待機中、順番が廻ってきたのにトラックを動かさないのを不審に思った会社の同僚がトラックに近づき中を見たら運転席で動かなくなっている被災者を発見した、救急車を呼んで近くの病院に搬送したが急性心筋梗塞により死亡した。	59	1～ 9
10	10～ 11	納品先に到着して荷物を下ろすためにトラックの後ろに回った時、急に意識がとぎれて倒れ、頭を強打したもの。	72	30 ～ 49
11	9～ 10	荷卸し作業中、ホームとトラックの間（15cm程の隙間）の溝に右足を取られ、右足が挟まったままホーム側に倒れ、右足脛を骨折した。	29	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html